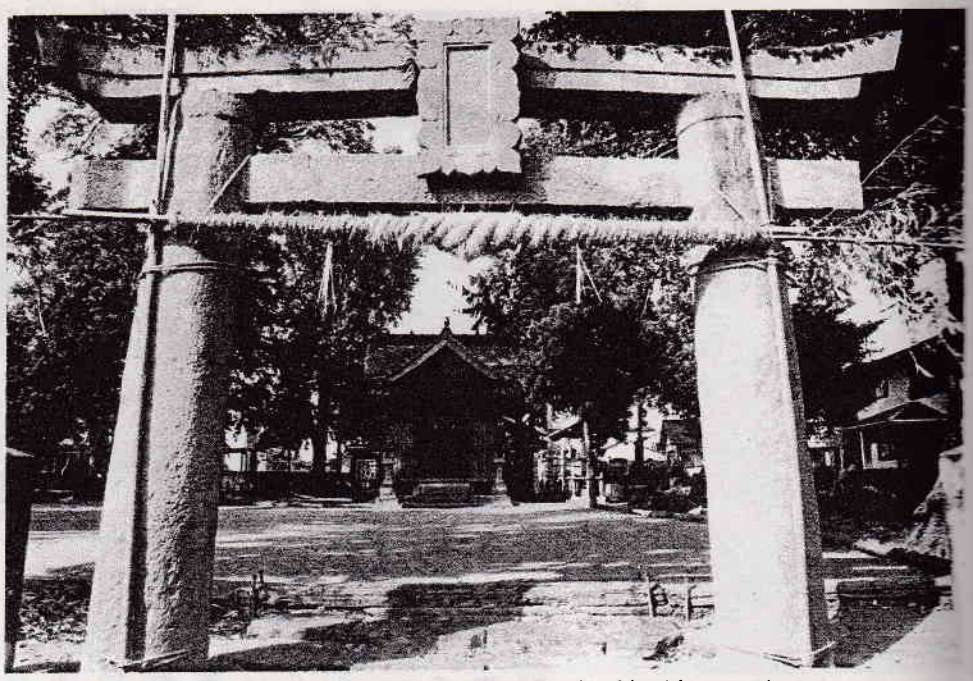

（注記　独特な形のしめ縄飾り）

写真3・59　西無田雨宮神社・全景

二・二　若葉校区

わたしたちのふるさと若葉校区は、藩政時代から集落が形成されていた西無田地区の農耕地帯であった。

昭和十七年熊本市健軍町の三菱航空機製作所建設に伴い、その社宅・独身寮が建設され、大きく変貌。

昭和二十年熊本市電健軍線開通。健軍地区の発展に伴い漸次住宅化都市化が進み、昭和三十七年（一九六二）に若葉小学校開校。

現在の校区は、「若葉二丁目・三丁目・四丁目・五丁目・六丁目の全域」と「若葉一丁目・東本町・広木町の一部」を範囲とし、世帯数二千三百八十戸・人口五千四百九十人（平成十四年二月一日現在）である。

歴史遺産もかっての西無田集落内に多く見られる

〔寺社〕

1　西無田　雨宮神社（熊野座神社）（マップ番号　22　）

鎮座地　熊本市若葉六丁目一番二〇号（一〇五一番地）

祭神　伊弉諾尊（いざなぎのみこと）　伊弉冊尊（いざなみのみこと）　速玉男之神（はやたまおのかみ）

西無田の南端に近く雨宮神社がある。

国郡一統志の西牟田（西無田）村には「雨宮大明神」、国誌の西牟田（西無田）村にも「雨ノ宮祭九月十九日　氏神ナリ」とあり、相当古くから有名な神社であったことがわかる。　可なり広い境内には椋・榎・杉などの大木があり、鳥居も相当古いと思われる。石灯籠一対は安永三甲牛（一七七四）のもので、手水鉢には「文政十二年丑（一八二九）九月五日」「奉寄進　惣助　国分村石工惣助」と刻まれているが、文字面だけが磨かれ、あとは切り出したままの石である。

写真3・60　西無田雨宮神社・社殿

注記

御神体の色彩について
正徳四年（一七一四）の彩色の他に「元文六年（一七四一）か延享五年（一七四八）に刻記してある氏名を多少削除して書き換え彩色した」とも伝られる。（上益城郡誌）

拝殿と神殿は別棟で、拝殿の格天井には草花図が各狭間ごとに描かれ、四枚の絵馬がかかっている。神紋は左上違い鷹の羽で、阿蘇系であり、健軍神社との関連を思わせる。この境内の二本の杉には変わったしめ縄が張られている。

（熊本市東部文化財調査報告書・秋津小百周年記念誌　秋津の歴史）

西無田雨宮神社は天文元年（一五三二）七月井寺村熊野宮（現嘉島町井寺・浮島熊野座神社）を分霊。創建当時は若葉六丁目一一番一号の矢田氏方北の「神屋敷」に建立されていた。元文元年（一七三六）現在地に遷宮、安永七年（一七七八）改築されらる。

西無田雨宮神社の御神体には次の由来が伝えられている。

「文禄元年（一五九二）加藤清正朝鮮が出兵の際、「島崎半兵衛尉正経」が船頭かしらとして従軍した時。慶長三年（一五九八）引揚げの帰路、材木が船についてきて、いくら押し流しても、押し流してもついてくるので、これは何かの因縁と思い持ち帰り、その奇木の一部で御神体を刻んだもの。

その残りの材木は今も神殿の下に置いてある。それで西無田神社を「雨宮由屋浮木の権現（あめみや　ゆやろきき　ごんげん）」と言う。

正徳四年（一七一四）六月ブルー色に彩色される。

榊の大株を玉垣で囲い遙拝所としてある。昭和十年（一九三五）八月建設、神殿・神楽殿・拝殿が棟別に連なっている。拝殿の格天井には草花図があり絵馬が掛かっている。

明治十二年（一八七九）に牛若弁慶の図が奉納されている。

台風十九号の被害修復改築が平成十三年に行われた。

鳥居は仕上げが雑で相当古い感じだが、文字は刻んでない。磨き額面には「雨宮」としてある。

境内には椋・銀杏・杉の大木が数本あり、境内周囲全部を玉垣をめぐらしてあり、境内には、灯籠二対や記念碑が二基がある。猿田彦大神も祀られている。

神殿前には全高さ一三五㌢の灯籠一対が奉納されており、右灯籠には「安永三甲年（一七七四）奉寄進」と刻んであるが、左側には文字なし。また拝殿前には全高さ二六〇㌢の「昭和十一年（一九三六）氏子中」の灯籠一対が奉納されている。

手水鉢には「文政十二年（一八二九）九月五日奉寄進　国府村　石工惣助」が刻まれている。

写真3・61　西無田雨宮神社・牛若弁慶之図

写真3・62　猿田彦大神

記念碑　基礎　九六×九六×高さ　八八㌢　の閃矢石組
中台　五九×五九×高さ　三三㌢
碑　直径　三五×高さ一二五㌢　の円筒形
「記念碑文・昭和十一年（一九三六）十月吉日謹誌　委員　石工大工野の名前」が彫ってある。

記念碑（平成一三年台風一九号の被害修復改築記念碑）
基礎　一二七×七九×高さ九三㌢。正面に「祭神　創建　移築」など内容が彫ってある。
中台座　九四×四八×高さ一八㌢
碑　厚二五×高さ七七㌢の足付き平石
「工事経過の碑文・世話人の名前」が彫ってある。

猿田彦大神　基礎　一〇八×一〇八×高さ六八㌢
神体　幅七〇×厚三〇×高さ一六五㌢の面取り自然石
「猿田彦大神」の外に文字はない。

猿田彦は、秋津地区では珍しく西無田雨宮神社境内の一ケ所しか見かけなかった。鳥居には直線的で独特な形をした珍しいしめ縄が張ってある。さらに、中無田熊野座神社・沼山津神社と同様に奉納相撲時「吉田司家座（通称追い風座」）が神木に張られている。

（語りべ学習会）

「石造物」

西無田地蔵群

2　○西無田馬頭観音等地蔵三体　（マップ番号　67　）
所在地　熊本市若葉六丁目六番四六号（東側）

西無田雨宮宮の東に二〇～三〇㍍の間隔を置いて小堂が二つ並んでいる。東側のものは近年の作になる馬頭観音と地蔵、弘化三年（一八四六）銘の地蔵の三体が祀

写真3・63　西無田頭観音等地蔵三体

られている。最後の地蔵は一部セメントで補修されているが、縦長い石の上部を刳って座像を彫み、その下部に「弘化三年二月　進寄　大酒屋才助　西無田村　広木村　上り無田村　中無田村　三郎無田　世話人　鯰村伊エ門　西無田村善七　清九郎　永八」と記されている。

（熊本市東部文化財調査報告書・秋津小百周年記念誌　秋津の歴史）

建立は弘化三年（一八四六）二月。

間口一四三㌢　奥行き一一二㌢　軒下までの高さ一一五㌢　屋根高さ六八㌢ブロック上塗仕上、木造屋根の小堂に三体の地蔵が安置されている。

左から一体目の馬頭観音。幅三一㌢　高さ一三㌢の台座上に、舟形光背の仏像高さ三四㌢　膝張二〇㌢　肩幅一二㌢　顔高さ一一㌢　顔幅九㌢の三面六臂で、第一手薬壷印・第手左手弓・第三手左手鈷杵・右手十字杵・右手に宝棒を持った座像である。

正面の二体目は、幅三六㌢　高さ一四㌢の台座、蓮華座の上に仏像高さ三九㌢　膝張二六㌢　肩幅二〇㌢　顔高さ一三㌢　顔幅一一㌢、左手膝上念珠、右手は胸の前に鈷杵の座像である。

右側の三体目は、幅二四㌢　高さ五二㌢の石に地蔵が彫ってあり、一部セメントで補修されている像の下に次の文字が彫ってある。

弘化三午二月

奉寄進

大阪屋才助　世話人
西無田村
廣木村　鯰村伊エ門
上り無田村　西無田村
中無田村　善七　清九郎
三郎無田村　永八

（語りべ学習会）

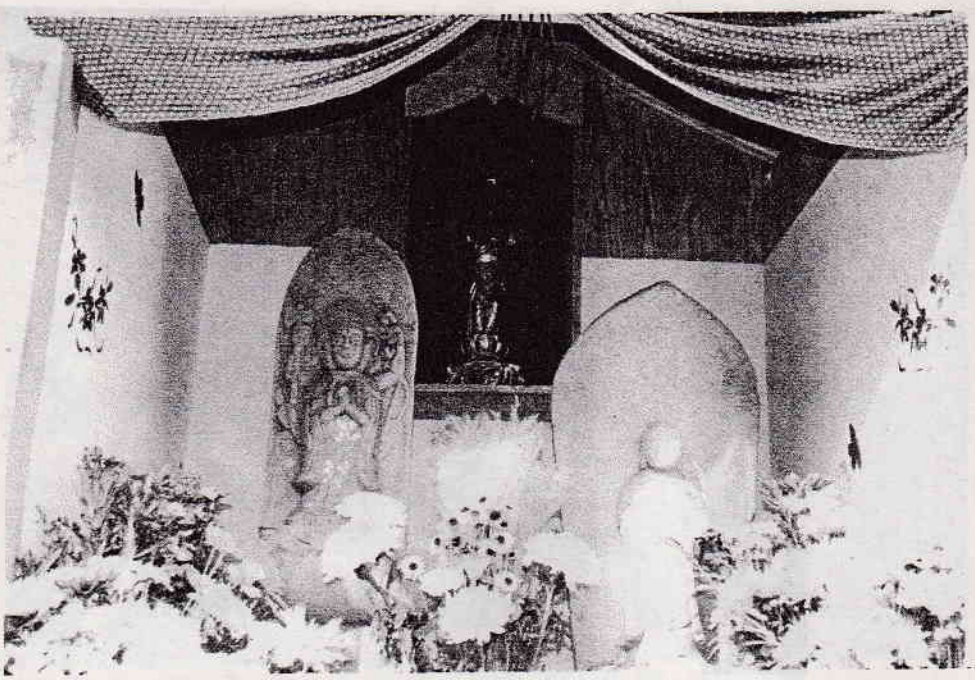

写真3・64西無田頭観音・聖観音・地蔵の三体

3　○西無田馬頭観音・聖観音・地蔵の三体　（マップ番号　66）

所在地　熊本市若葉六丁目二番五三号（神社側）

雨宮寄りの堂には馬頭観音・聖観音・地蔵の三体が並び、馬頭観音は近年のものである地蔵は舟型光背を持ち、両手に宝珠を抱き蓮華座上に立っている。光背右に「奉寄進」左に「宝暦二壬申（一七五二）二月吉日　西無田若者中」と刻まれている。

（熊本市東部文化財調査報告書・秋津小百周年記念誌　秋津の歴史）

建立は宝暦二年（一七五二）壬申二月。

間口一四七㌢　奥行き一二〇㌢　軒下までの高さ一三一㌢　屋根高七三㌢　木造瓦葺きブロック上塗仕上げの小堂に三体の地蔵が安置されている。

正面奥の一段高いところに祀ってあるのは聖観音。

仏像全高五四㌢の小さな金箔張りの木像が、肘を曲げ少し広げて左手薬壺印相、右手拳印相の仏像が、高さ七㌢の台座・高さ六㌢の蓮華座上に立っている。

左側は二体目は馬頭観音。

高さが蓮華座一二㌢　下台一六㌢　中台二三㌢の台座の上に、舟形光背の立像全高五八㌢仏像高三九㌢　肘張一二㌢　肩幅一二㌢　顔高一二㌢　顔幅一一㌢の三面六臂で第一手合掌印・左第二手独壺・第三手弓・右第二手斧・第三手矢の像である。

右側三体目は地蔵。

幅四〇㌢　高二一㌢の台座、高さ八㌢の蓮華座の上に、光背高七八㌢　立像高さ四一㌢肘張一四㌢　肩幅一四㌢　顔高九㌢　顔幅七㌢の舟形光背き薬壺印相の像が立っている。この右側地蔵の光背に次の文字が刻まれている。堂宇は平成三年に新築されている。

奉　寄　進
宝暦二年壬申二月吉　西無田若者中

（語りべ学習会）
（語りべ学習会）

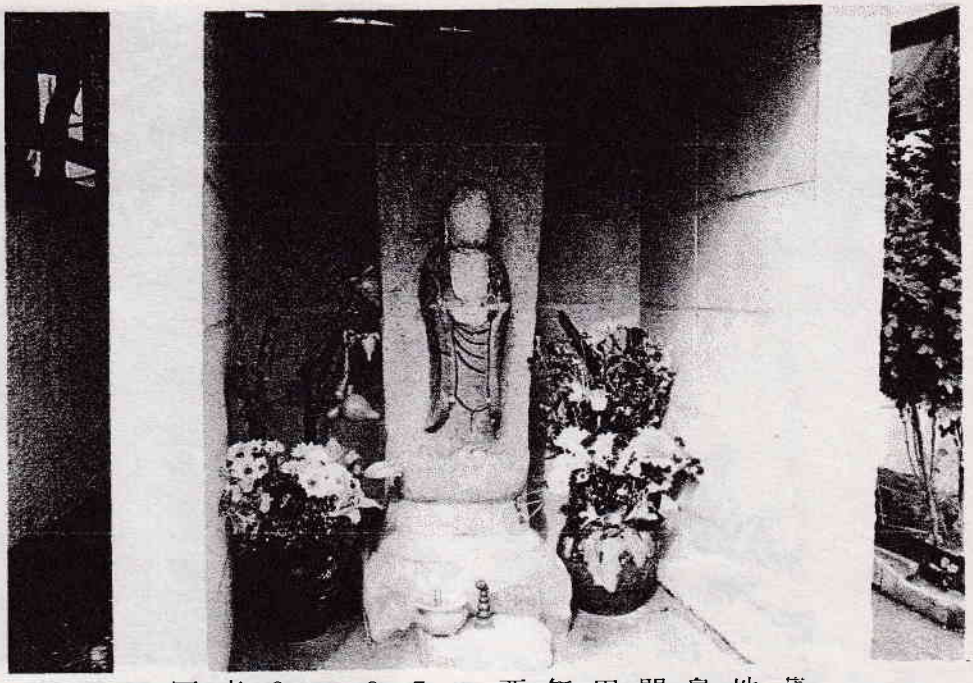

写真3・65　西無田間島地蔵

4　○西無田間島地蔵　（マップ番号　53　）

所在地　熊本市若葉五丁目四番五〇号

雨宮神社の北に、間口一〇八㌢　奥行八一㌢　軒下高さ一二〇㌢　屋根高さ五〇㌢の堂の中に、明和三年（一七六六）と刻みのある地蔵が祀られている。

高さ一九㌢の台座の上に、舟形光背全高さ一二五㌢（内蓮華座高さ一六㌢）地蔵の身高さ五〇㌢　肘張り一七㌢　肩幅一六㌢　顔高さ一一㌢　顔幅八㌢の立像であり、印相は薬壺印、衣を彩色してある。

明和三丙戌間島若者中

地蔵本体

四月吉祥開眼　真宗寺

石工

和吉

この付近は「新屋敷」と呼ばれている。舟運が盛んな時代に「間島」に住んでいた人達が、舟運が衰えまた水害が酷くなり、住み難くなってこの付近に移住してきたとのこと。

新しく屋敷が出来たので「新屋敷」と言われてきた所である。

この地蔵はもと「間島」にあったものか、又移住してきてから創建されたのかは不明

（語りべ学習会）

水神さん

5　○西無田間島水神　（マップ番号　35　）

所在地　熊本市秋津町秋田　（秋津川と木山川の合流点）

秋津川と木山川の合流地点堤防上の水神。六×四・二㍍の敷地に、縦一二〇㌢　横一二〇㌢　高さ二四㌢の基礎。更に幅五五㌢　横五〇㌢　高さ三〇㌢の台座を置き、その上に幅四八㌢　高さ五三㌢の自然石の水神が祀られている。表に「昭和二年（一九二七）」、裏に「間島」の銘がある。

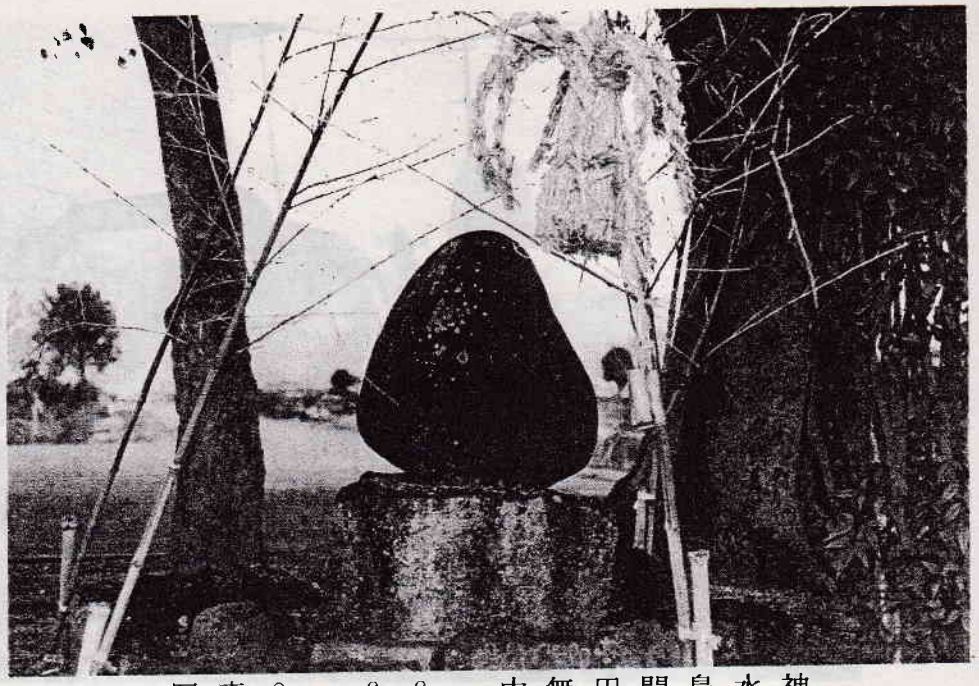

写真3・66　中無田間島水神

〔本体〕　〔台座に〕　〔台座裏側に〕

水神	昭和二年十月建	間島

（語りべ学習会）

6　○西無田水神　（マップ番号　37　）

所在地　熊本市秋津町秋田字筏場

秋田字筏場の田圃（若葉六丁目八番の南側）の角に、縦一八一㌢　横一八一㌢の台座の上に、二柱の水神が祀られている。

左側の水神は、幅三〇㌢　高さ七九㌢の自然石で無銘である。

右側の水神は、下幅三〇㌢　高さ五〇㌢の自然石で、風化して見にくいが次の字が刻まれている。

〔正面に〕

水神

〔南面に〕

寶暦元年　創設
明治三十三年三月十二日
百五十年祭改修

もと何処にあったのか不明。圃場整備で現地にまとめて移転されたものと思われる。

（語りべ学習会）

写真３・６７　西無田水神

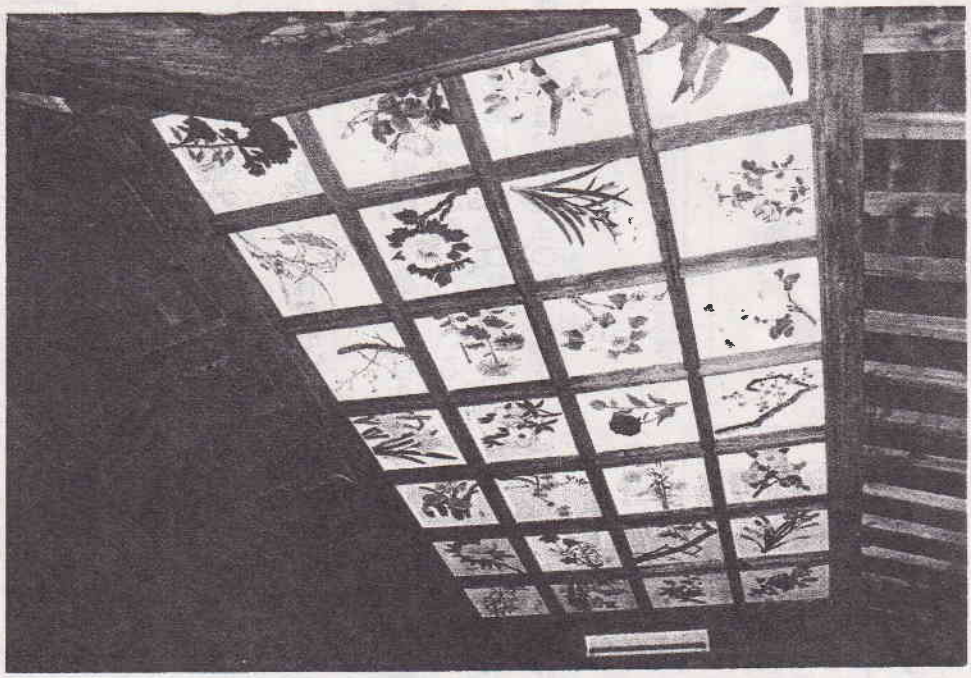

写真３・６８　西無田雨宮神社

格天井の草花図

三・三　桜木校区